

療育のあゆみ

2025 年（令和 7 年）度業務統計

福 井 県
福井県こども療育センター

2026 年（令和 8 年）7 月

はじめに

こども家庭庁が 2023 年に創設され、同時に「こども基本法」が制定されて様々な「こども施策」が進められています。「こども基本法」には、全てのこどもの基本的人権が守られ、適切な養育、生活、愛情と保護、教育などの権利が守られること、年齢と発達の程度に応じて意見表明や社会的活動参画の機会が確保されること、保護者への十分な養育支援および養育環境の確保を行うことなどが基本理念として挙げられています。

当センターもこの基本理念を中心としながら、以下の理念と基本方針に基づいて、医療と福祉の両面からの活動を行っています。

理 念：

「私たちは、あらゆる障がい児のために療育環境と療育技術の向上に努力いたします。」

基本方針：

- 1) あらゆる障がい児に対し、高度な医療と福祉を提供いたします。
- 2) 県内各関連機関との連携を強化し、地域療育拠点施設として貢献いたします。
- 3) あらゆる障がい児の成長過程に合わせた QOL（生活の質）の向上を目指して、個々のニーズに対応いたします。

障がいを持つ子どもたちの状況は年々変化しており、家族とともに生活し地域での療育や教育などの支援を受けるという方向へと進んでいます。当センターでも、そうした情勢を踏まえた取り組みを 2025 年度（令和 7 年度）も行ってきました。外来での専門的診療・リハビリテーション、講座や特別外来などを継続しました。地域支援部門では、小児療育担当職員等実務研修(2014 年（平成 26 年～）)、リハイク（2020 年（令和 2 年～）特別支援学校へのリハビリ相談事業）、リハシル(2022 年（令和 4 年～）地域の支援機関への出前講座）などを実施しました。また、嶺南地域療育機能強化支援事業として行ってきた活動は「こども療育センター地域支援サポート事業」として県内全域へと展開し、嶺北地域の市町へのヒアリングを行いました。医療型障害児入所施設つくし園については、在宅医療的ケア児者の短期入所のニーズが高まっていることを受けて行われた施設改修工事が終了し、新たな体制での受け入れを開始しました。引き続き、長期的な視点に立って、療育体制の充実に取り組んでいきます。

今後も支援の必要な児とご家族、支援者の方々の声をお聞きしながら、当センターに求められる役割を果たしていく所存です。皆様のご支援・ご指導をよろしくお願いいたします。

この「療育のあゆみ」は、2025 年（令和 7 年）度の業務実績をまとめたものです。

ご高覧のうえ、ご意見・ご感想をいただければ幸いです。

2026（令和 8）年 4 月

福井県こども療育センター所長 畑 郁江

目 次

I センターの概況	
1 業務概要	1
(1) 療育相談・診療部門	
(2) 福祉施設部門	
(3) 地域支援活動	
(4) ボランティア活動	
(5) 広報活動	
2 沿革	8
3 職員・各種委員会	9
II 業務統計	
1 療育相談・診療部門	
A 外来新患	10
(1) 相談別集計	
(2) 年齢別集計	
(3) 紹介元別集計	
(4) 住所別集計	
A-1 各科外来新患分類	12
(1) 小児科	
(2) リハビリテーション科	
(3) 整形外科	
(4) 耳鼻咽喉科	
(5) 児童精神科	
B 診療・療育相談	16
(1) 外来児の取扱数(診療科別延人数)	
(2) 手術件数	
(3) ボトックス治療実施件数	
(4) 診療科別処方数	
(5) 診断書・意見書等作成件数	
(6) 補装具作成件数(椅子など)	
(7) 補装具作成件数(装具)	
(8) 放射線部位別撮影件数	
(9) 生理検査件数	
(10) 検体検査件数	
(11) 心理判定・心理治療件数	
(12) 心理判定・心理治療の障がい別実人数	
(13) 心理治療技法別件数	
(14) 種類別心理検査実施件数	
(15) 医療ソーシャルワーカー相談件数	
(16) 栄養指導延件数	
(17) 外来講座実施状況	
C リハビリテーション(理学療法・作業療法・言語聴覚療法・音楽療法)	22
(1) 理学療法の障がい別実施件数	
(2) 理学療法の年齢別実施人数	

- (3) 作業療法の障がい別実施件数
- (4) 作業療法の年齢別実施人数
- (5) 言語聴覚療法の障がい別実施件数
- (6) 言語聴覚療法の年齢別実施人数
- (7) 音楽療法の障がい別実施件数
- (8) 音楽療法の年齢別実施人数

2 福祉施設部門

A	医療型障害児入所施設 つくし園	30
	(1) 月別在籍数 (初日現在)	
	(2) 障がい別集計	
	(3) 年齢別集計 (入所時)	
	(4) 住所別集計	
	(5) 進路別集計 (退所時)	
	(6) 在籍期間別集計 (退所時)	
	(7) 重複症状別人数	
B	児童発達支援センター つばさ	33
	(1) 月別在籍数 (初日現在)	
	(2) 障がい別集計	
	(3) 年齢別集計 (通所開始時)	
	(4) 住所別集計	
	(5) 進路別集計 (退所時)	
	(6) 在籍期間別集計 (退所時)	
	(7) 重複症状別人数	
	(8) 水治療室利用件数	
C	生活介護事業所 「オアシス」	36
	(1) 月別在籍数 (初日現在)	
	(2) 月別利用者延べ人数	
	(3) 障がい別集計	
	(4) 年齢別集計 (年度開始時)	
	(5) 住所別集計	
	(6) 入浴利用者延べ人数	
	(7) バス通所利用者延べ人数	
	(8) 重複症状別人数	
D	短期入所	38
	(1) 利用件数	
	(2) 重複症状別人数	

3 地域支援活動

A	療育研修会	39
B	療育支援活動	40
	(1) 診療科別実施状況	
	(2) 地域支援課実施状況	
	(3) 特別支援学校リハビリ相談事業～リハイク～実施状況	
C	こども療育センター地域サポート事業	44
D	子育て講座実施状況	47

4 その他の活動

- | | | |
|---|-----------------|----|
| A | ボランティア活動 | 48 |
| | (1) ボランティアの受入状況 | |

- B 実習・見学
 - (1) 実習生研修状況
 - (2) 施設見学・視察受入状況
- C 水治療室の利用者別実施人数

Ⅲ 研究業績		49
1 学会発表		
2 講演		
3 執筆		

I センターの概況

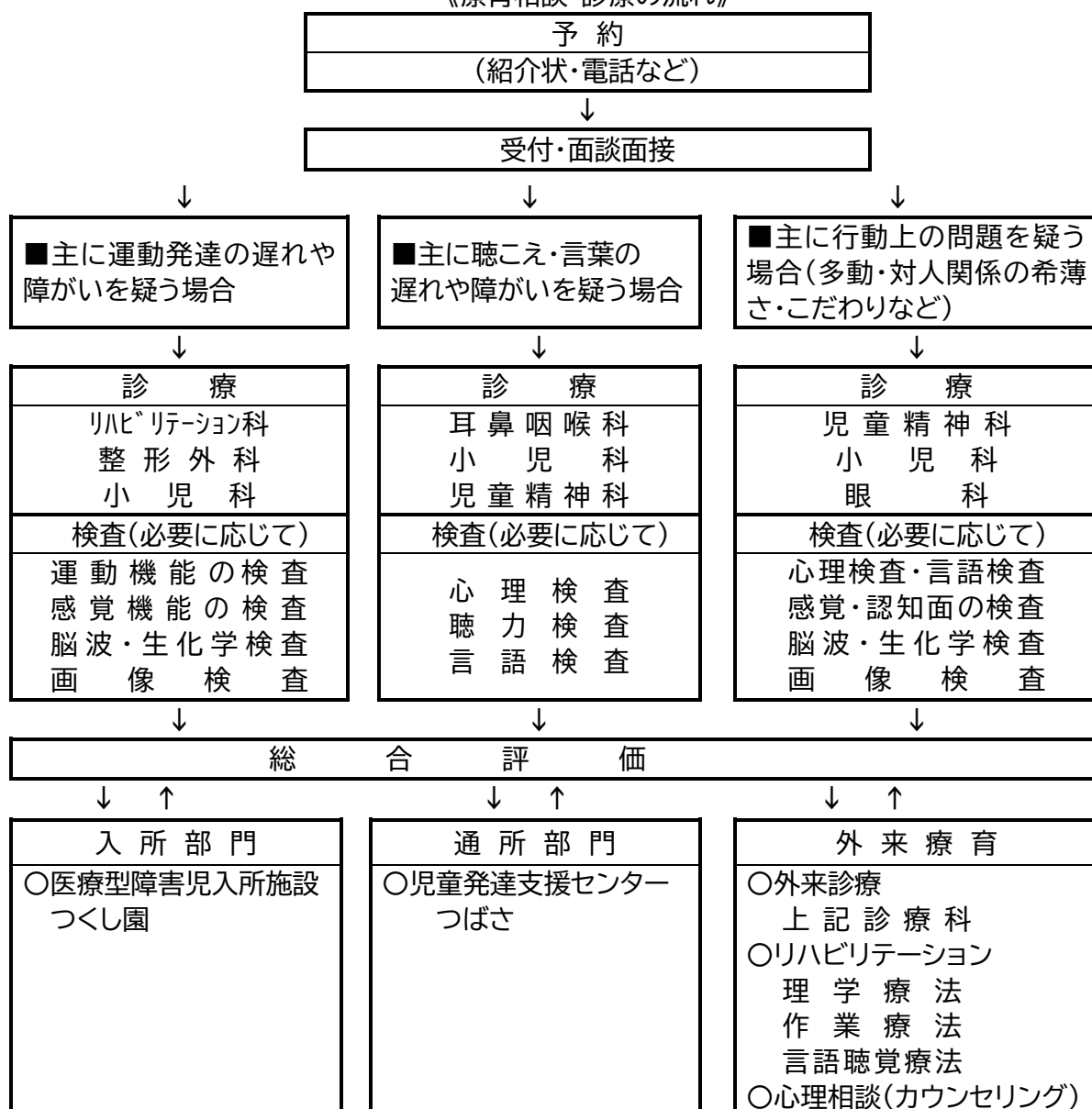
1 業務概要

こども療育センターは、医療と福祉の機能を併せ持ち、医師など 15 に渡る職種の職員がチームを組んで障がい児のために総合的できめ細やかな療育を行っている機関です。

また、下表のように、医療や保健、児童福祉、教育機関など、各関係機関とも相互に連携を取り合っています。

医 療	保 健・福 祉	教 育
福 井 県 立 病 院 各 医 療 機 関	障がい福祉・精神保健相談所 児 童 相 談 所 県健康福祉センター 市 福 祉 事 務 所 市町保健センター 保育所、児童発達支援 相談支援事業所など	特別支援教育センター 特 別 支 援 学 校 そ の 他 の 諸 学 校 幼 稚 園 など

《療育相談・診療の流れ》



(1) 療育相談・診療部門

生後間もなく身体や発育の異常に気づかれたお子さんや、地域の医療・福祉・教育の機関等で気がかりさを指摘されたり発達の遅れを疑われたお子さん達が、専門的な診断・治療を希望して保護者や関係者とともに窓口を訪れます。

紹介制を原則とし、あらかじめ電話等で日時の予約をしていただきます。初診予約は医療ソーシャルワーカーが対応し、相談の内容に応じて、診療、検査、テストなどの順序や組合せを考え、予約を受け付けます。

診療にあたり、医師(リハビリテーション科・小児科・整形外科・耳鼻咽喉科・児童精神科・眼科)はお子さんの成長発達全体について専門的な検討を行います。それを踏まえて、各種機能の発達の遅れや異常、精神発達の状態像を正確に把握するために、必要に応じて各部門で次のような諸検査が行われています。

生理的検査	脳波検査、心電図、聴性脳幹反応検査など
画像検査	X線撮影、超音波検査など
身体運動機能検査	〈理学療法〉身体計測、筋力テスト、関節可動域テスト、感覚(知覚)検査、脳性麻痺簡易運動テスト(SMTCP)など
精神運動発達検査	〈理学療法〉日本版デンバー式発達スクリーニング検査、運動年齢検査、ADLテストなど 〈作業療法〉乳幼児発達スケール(KIDS)、こどものための機能的自立度評価表(WeeFIM)など
認知・感覚面の検査	〈作業療法〉フロスティッグ視知覚発達検査、WAVES、感覚プロファイルなど
聴力検査	条件詮索反応検査(COR)、遊戯聴力検査、純音聴力検査など
言語発達等検査	絵画語彙発達検査、田研式言語発達診断検査(語彙検査)、質問-応答関係検査、言語・コミュニケーション発達スケール、改訂版小学生のための読み書きスクリーニング検査など
音声に関する検査	構音検査、発声・発語器官機能検査など
心理検査	新版K式発達検査、WISC-V、田中ビネー知能検査、PARS、Vineland-II 適応行動尺度、描画テストなど

このような多方面にわたる検査や評価を統合して、持ち込まれた問題への対応策が示され、お子さん本人やご家族に対して、毎日の生活に密着した養育の指導がなされます。

外来診療としては、てんかん発作のコントロール、自閉スペクトラム症などの発達障がいへの児童精神医学的にかかわり、言語・聴覚障害児の言語聴覚療法や補聴器装用指導、肢体不自由児の義肢・装具の装着、一般病院では対応の難しい小児整形外科疾患の診断・治療、理学療法・作業療法および心理療法(遊戯療法など)などの専門的な治療を行っています。

なお、事後の継続的な医学的観察や治療の一部は、紹介医療機関などに依頼することもあります。

そのほかに、外来の一環として、2025年度は以下のものを実施しました。

- ・「ペアレント・トレーニング外来」(発達障がい児の保護者対象。公認心理師が担当。)
- ・「コミュニケーション外来」(ことばでのコミュニケーションが苦手な発達障がい児対象のコミュニケーション支援。言語聴覚士が担当。)

- ・「吃音治療」(幼児期～学齢期を対象としたリッカムプログラム。言語聴覚士が担当。)
- ・「偏食・小児の摂食指導」(発達障害児の偏食・小食に対する専門的指導。言語聴覚士が担当。)
- ・「ももくり外来」(発達障がい児の家でとりくめる遊びの提案や保護者へのかわり方の支援。作業療法士が担当。)
- ・「しゃべり場」(発達障がい児本人のグループトーク。公認心理師が担当。)
- ・「水治療法」(運動に遅れや障がいがあるお子さん及び運動が苦手なお子さん対象のプールでのプログラム。理学療法士が担当。)
- ・「こあら外来」(未歩行のお子さんが対象。医師、理学療法士、保育士等が担当。)
- ・「カナリア外来」(発達障がい児の保護者対象の学習会。医師、公認心理師が担当。)

お子さんの発達や機能の向上には、家庭や集団生活場面での指導方法や留意点についての助言が求められます。保健や栄養・心理面への配慮、子育て環境の調整などについての各専門スタッフによる指導や援助も欠かすことができません。

当センターでは、保護者支援の一環として講座を行っています。2025 年度も実施しました。

当センターではお子さんが本来持っている力を最大限発揮できるように、成長・発達を支えます。ご家族と一緒に、お子さんを取り巻く地域社会の機能や資源も活用して、お子さんが生き活きと楽しく生活できるように考えることを療育相談・診療部門の役割としています。

(2) 福祉施設部門

こども療育センターは、医療と福祉がひとつになった、障がい児のための総合療育機関であり、療育相談・診療部門と福祉施設各部門が連携しています。

児童発達支援センター つばさ 定員40名／1日
運動や対人・コミュニケーションの発達に専門的支援を必要とする就学前のこども達が親子で通所する施設です。それぞれの発達状態や特性に合わせたグループ療育を行っています。 保育士や看護師等が保育や健康相談等を提供する中で、健康面、情緒面、生活面やコミュニケーション面の発達援助に取り組んでいます。 また、お子さんが地域社会で自分らしく成長し、家族とともに楽しい生活が送れるよう、保護者支援や地域療育支援も行っています。
医療型障害児入所施設 つくし園
運動の発達に遅れや障がいがあり、治療やリハビリ、養護、看護を必要とするお子さまが入所している施設です。 学齢児童は隣接する福井東特別支援学校に通学します。 (親子入所) 乳幼児で治療上付き添いが必要な場合は、親子で一緒に入所します。 (短期入所) 医療型障害児入所施設つくし園の空床を利用して短期入所を行っています。ご家族の様々な理由により、一時的に自宅で介護を受けることが困難なお子さまを短期間お預かりします。

(3) 地域支援活動

1) 療育研修会

障がいのある子どもの地域社会への参加・包容(インクルージョン)の推進のため、保護者や支援者を対象に、さまざまな分野において造詣の深い講師を招き、障がい児・者支援に関する知識や情報などを講義や実技指導を通し学ぶ研修会を行っています。

また、障がいのある子どもの健やかな育成のために、地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育、就労支援等の関係機関が連携を図り、切れ目のない一貫した支援を提供する体制の構築を図れるよう、支援者を対象に、所内見学会やグループワークを行うなど、当センターの役割・機能の周知や、顔の見える関係作りの機会等を通じて、地域との連携を深めるような取組みも研修会の一部として行っています。

療育研修会を通して、障がい児・者への理解、支援の輪が広がり、関係機関が繋がることで、障がい児・者の日々の生活がより過ごしやすく、豊かなものとなるよう取り組んでまいります。

2) 療育支援活動

専門的な療育・教育機関等からの要請を受け、センターの職員が出向いて医学的管理や療育技術の指導を行うなどの支援を行っています。主な支援活動は表のとおりです。

施設・学校・機関	内 容	スタッフ
地域療育拠点施設 (委託医療機関及び事業所)	小児療育体制確保事業(県障がい福祉課)の受託施設に対して、診療および療育を担当する職員への研修を行う。	医 師 理学療法士 作業療法士 言語聴覚士
福井市子育て支援室	保育所入所児発達相談専門委員会において、保育所入所希望児の各種相談・病状などに対し医療面から専門的助言や指導を行う。	医 師
福井市教育委員会	教育支援委員会や特別支援専門委員会において、就学児等の各種相談・病状などに対し、医療面から専門的助言などを行う。	医 師
特 別 支 援 学 校	特別支援学校での学習や生活現場における医学的な留意事項や介助、支援方法を家族および担当教諭に専門的な立場から助言などを行う。	医 師 理学療法士 作業療法士 言語聴覚士
学校 児童福祉施設 障害福祉サービス事業 所	教員、保育士、支援者等に見学の受け入れや障がいや気がかりさのある児、者への理解を深めるための研修を行う。	医 師 保育士 公認心理師 理学療法士 作業療法士 言語聴覚士
児童発達支援センター 児童発達支援事業所	事業所利用児の発達健診や保護者学習会等を通じ、保護者への支援や職員指導、市町の支援体制づくりへの助言等を行う。	医 師 保育士 公認心理師 理学療法士 作業療法士 言語聴覚士

3) こども療育センター地域サポート事業（地域支援グループ）

気がかりさがあるお子さんの療育は、「子どもの身近な地域における早期からの支援」が求められており、県全域で必要とされる専門的療育を提供する体制が必要です。このため福井県では医療と福祉の機能が一つになった総合療育機関であるこども療育センターから地域の支援体制づくりのサポートをおこなっています。

本事業は、「嶺南地域療育機能強化支援事業」として 2012 年度に開始されました。2024 年度までの対象地域は嶺南地域に限定されており、言語聴覚士および公認心理師を若狭健康福祉センターに駐在配置し、理学療法士および作業療法士については、こども療育センターから派遣する形で支援を行ってきました。

支援ニーズの広がりを受け、2025 年度からは事業の対象地域を福井県全域へと拡大しました。あわせて支援体制の見直しを行い、これまでの駐在型を廃止し、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・公認心理師について、こども療育センターからの派遣型による支援体制へと移行しています。

各市町の実情についてヒアリングを実施し、地域ごとのニーズに合わせた支援をおこなっていきます。

4) 小児療育担当職員等実務研修（児童発達支援センター つばさ）

2010、2011 年度に、発達障がい児支援に関する人材育成の一役を担う目的で、「発達障害児支援に関する保育士研修」を旧難聴幼児通園施設ひばり園（現児童発達支援センターつばさ）で受け入れました。（2012、2013 年度については、諸般の事情により行っていません。）

2014 年度からは、地域療育の充実を図るために、「小児療育担当職員等実務研修」を児童発達支援センターつばさで受け入れています。

2017 年度から研修型のペアレント・プログラムのコースを実施しています。2022 年度は出張講座「ほめるコツ～ペアレント・プログラムのエッセンス～」、2023 年度からは出前講座に名前を変えて「ほめるコツ～ペアレント・プログラムのエッセンス～」を実施しています。

2023 年度以降の実施内容は以下の通りです。

対 象：地域で発達障がいをはじめとする障がい児への支援に従事する職員。

研修コース：1 週間コース、ペアレント・プログラム（ペアプロ）コース、

出前講座「ほめるコツ～ペアレント・プログラムのエッセンス～」コース

研 修 内 容：障がい児に対する直接的な支援方法や保護者支援等に関する技術の習得を図ります。

＊ペアレント・プログラム：子育ての困り感を丁寧に分析し、子や自身を行動で捉え、できたことをほめる子育て、また、保護者同士の仲間づくりを目指すプログラム。

5) ペアレント・プログラム（児童発達支援センター つばさ）

2015 年度より保護者を対象に、2017 年度からは小児療育担当職員等実務研修「ペアレント・プログラム」コースを兼ねたペアレント・プログラムを実施しています。

6) 子育て講座（児童発達支援センター つばさ）

2014 年度より保護者を対象に、2017 年度から支援者も対象に実施しています。

7) 地域支援グループ（理学療法士(PT)・作業療法士(OT)・言語聴覚士(ST)・公認心理師)の活動

特別支援学校を対象にしたリハビリ相談事業「リハイク」は、実際の授業場面や、学校生活に立ち会い、リハビリテーションや心理の視点から教育現場に取り入れやすい支援方法を提案しています。当日の記録は後日、資料として提供しています。

また学校、児童福祉施設、障害福祉サービス事業所等に出向いて、実際の様子を伺いながら、各施設に合わせた出前講座「リハシル」を実施しています。

(4) ボランティア活動

ボランティア活動は利用者サービスの向上に寄与するとともに、活動者にとっては自己実現のための自発的な活動です。当センターでも『福井県こども療育センターボランティア運営要綱』を定め、活用を図っています。

(5) 広報活動

ホームページおよびパンフレットにて当センターの紹介をしています。

2 沿革

昭和35年	6月	肢体不自由児施設「福井県立あかり学園」(定員50名)開設
昭和36年	12月	母子室10床完成(定員60名)
昭和42年	4月	「福井県あかり整肢園」に名称変更 「福井養護学校」併設
昭和46年	4月	肢体不自由児通園センター(定員30名)開設
昭和52年	3月	福井県児童福祉審議会提言 「医療・福祉・教育各分野での三位一体の機能を持つ心身障害児総合相談センターが必要である」
昭和54年	4月	県立病院内に県立福井養護学校四ツ井分校開校
昭和58年	4月	福井県立福井東養護学校開校
昭和58年	4月	福井県小児療育センター開設 本県の総合療育施設として県立病院敷地内に東養護学校、特殊教育センターと共に一体的に整備。肢体不自由児施設「つくし園入所部」(定員50名)、同「つくし園通所部」(定員30名)、難聴幼児通園施設「ひばり園」(定員30名)を設置
平成15年	4月	小児療育センター再整備基本計画策定 県立病院再整備に伴う「県立総合医療センター」構想の一環として策定
平成17年	4月	新施設建設開始
平成19年	4月	新施設開設 「福井県こども療育センター」に名称変更 「福井東養護学校」「特別支援教育センター」「県立看護専門学校」と共に同じ建物内に一体的に整備された。 「リハビリテーション診療科」を新設 重症心身障害児(者)通園事業 A型「オアシス」を開始
平成24年	4月	児童福祉法の改正により、施設部門はそれぞれ、 医療型障害児入所施設つくし園 医療型児童発達支援センターつくし園 福祉型児童発達支援センターひばり園 としてみなし指定 「オアシス」は児童発達支援・生活介護事業所に変更
平成25年	4月	医療型児童発達支援センターつくし園と福祉型児童発達支援センターひばり園を統合し、 児童発達支援センター つばさを開設
令和3年	4月	「オアシス」は児童発達支援を休止
令和7年	3月	生活介護事業所「オアシス」は閉所
令和7年	10月	こども療育センター改修工事完成 つくし園(定員22名)

3 職員・各種委員会

当センターの業務運営にかかわる職種別人員と各種委員会は、以下のとおりです。

1) 職種別人員

(2025年4月1日現在)

職種別人員数

人員 職種	職員数 〔()は非常勤外数〕	摘 要			
所長（医師）	1	診療科別医師数			
事 務 職 員	5				
医 師	7 (8)				
薬 剤 師	1				
栄 養 士	2				
診療放射線技師	1				
臨床検査技師	1				
看 護 師	25				
公 認 心 理 師	3				
医療ソーシャルワーカー	2				
保 育 士	13				
理 学 療 法 士	6				
作 業 療 法 士	5				
言 語 聴 覚 士	8				
音 楽 療 法 員	(1)				

2) 各種委員会

危機管理委員会:
 倫理審査委員会
 感染対策委員会
 薬事委員会
 医療機器安全委員会
 コーディング委員会
 医療ガス安全管理委員会
 療育安全管理委員会
 NST 委員会
 栄養管理委員会
 褥瘡対策委員会
 医局会
 診療録管理・医事委員会
 情報委員会
 広報図書委員会
 防災委員会
 児発管会議
 利用者サービス改善委員会
 虐待対応委員会
 療育研修委員会

Ⅱ 業務統計

1 療育相談・診療部門

A 外来新患(全診療科)

(1) 相談別集計

(単位:人)

相談内容 \ 年度	2023年度	2024年度	2025年度
運動のおくれ	48	52	67
言葉のおくれ	139	173	217
落ち着き、集中	61	92	108
やりとりが苦手	21	29	37
こだわりが強い	17	12	12
学習の苦手さ	9	18	15
不登校／登園しぶり	6	2	5
睡眠について	0	2	2
股関節脱臼	269	285	292
背骨の変形や痛み／痛み	26	43	36
手足の変形／痛み	40	45	58
補装具作成	1	0	1
歩き方など	12	10	10
聴力	29	29	64
発音の問題	35	28	42
診断書作成	1	0	0
その他	39	50	68
合 計	753	870	1034

(2) 年齢別集計

(単位:人)

年齢 \ 年度	2023年度	2024年度	2025年度
6ヶ月未満	263	286	295
1歳未満	29	40	55
1 歳	71	70	92
2 歳	60	70	85
3 歳	104	116	151
4 歳	72	86	116
5 歳	57	90	96
6～12歳	75	93	109
13～17歳	20	19	34
18歳以上	2	0	1
合 計	753	870	1034

(3) 紹介元別集計

(単位:件)

紹介者 \ 年度	2023年度	2024年度	2025年度
福 井 県 立 病 院	40	59	118
他 の 医 療 機 関	474	429	435
学 校			2
幼 稚 園 ・ 保 育 所	4	4	2
児 童 相 談 所	1	1	1
市 町 村	197	269	338
児童発達支援センター	23	31	46
そ の 他	35	29	92
合 計	774	822	1034

(4) 住所別集計

(単位:人)

住所 \ 年度	2023年度	2024年度	2025年度
福 井 市	327	376	444
永 平 寺 町	26	25	26
坂 井 市	118	146	172
鯖 江 市	71	77	82
あ わ ら 市	24	24	24
越 前 市	94	108	153
越 前 町	6	18	15
池 田 町	2	3	2
勝 山 市	16	10	25
大 野 市	22	15	21
南 越 前 町	7	8	8
嶺北 計	713	810	972
敦 賀 市	19	34	23
美 浜 町	3	2	5
若 狭 町	1	2	5
小 浜 市	2	2	3
高 浜 町	0	0	0
お お い 町	1	1	2
嶺南 計	26	41	38
県内 計	739	851	1010
県外 計	20	19	24
合 計	759	870	1034

・表の住所:こども療育センターから直線距離で近い順

A-1 各科外来新患分類

(1) 小児科

障害別集計

(単位:人)

障害の区分			年度	2023年度	2024年度	2025年度
神経発達症	神経発達症群	知的発達症		30	22	22
		言語症		25	24	65
		自閉スペクトラム症 (言語発達遅滞あり)		96	133	142
		自閉スペクトラム症 (言語発達遅滞なし)		85	120	99
		特異的学習症		3	2	2
		発達性協調運動症		3	7	10
		チック症、トゥレット症候群		0	0	0
		注意欠陥多動症		34	41	38
		吃音症、その他の神経発達症		6	8	11
精神神経疾患	一時的な精神症など	統合失調症、気分症など		0	0	0
	不安関連症群	緘黙、社交不安症、分離不安症など		0	3	1
	強迫症群	身体への反復行動症など		0	0	0
	ストレス関連症群	反応性アタッチメント症 脱抑制性対人交流症 心的外傷後ストレス症など		0	1	0
	衝動制御症群など	間欠爆発症、反抗挑発症など		0	0	0
	その他	睡眠障害、遺尿・遺糞症、食行動症など		0	2	1
その他	染色体、遺伝子の異常など	ダウン症候群		6	10	6
		その他		6	2	7
	その他	不登校など		4	0	0
中枢神経(脳・脊髄)疾患		脳性麻痺(疑いも含む) 中枢性協調障害		5	3	4
		脳血管障害		0	0	0
		脳炎・脳症		2	2	3
		その他		4	0	2
(末梢)神経・筋疾患		筋ジストロフィー		3	0	0
		その他		2	3	0
染色体、遺伝子の異常など		ダウン症		0	0	2
		その他		0	0	1
原因不明の発達の遅れ				21	27	24
言語機能障害		言語発達遅滞		6	30	8
聴覚障害		難聴		0	0	2
音声機能障害		構音障害		2	6	1
小児整形外科疾患		乳児股関節脱臼・亜脱臼		0	0	0
		発育期に特有の下肢の変形		0	0	0
合 計				343	446	451

(2) リハビリテーション科

障害別集計

(単位:人)

大分類	小分類	2023年度	2024年度	2025年度
中枢神経(脳・脊髄)疾患	脳性麻痺(疑い含む) 中枢性協調障害	3	4	5
	二分脊椎	0	1	1
	脳血管障害	1	1	1
	脳炎・脳症	1	2	1
	その他	0	1	4
(末梢)神経・筋疾患	筋ジストロフィー	4	1	0
	その他	2	0	3
染色体、遺伝子の異常など	ダウン症	4	6	3
	その他	5	4	3
原因不明の運動の遅れ		5	4	16
骨系統疾患	骨系統疾患	0	1	1
小児整形外科疾患	子宮内圧迫症候群	0	0	1
	斜頸	0	0	0
	先天性内反足・内転足など	0	1	0
	乳児股関節脱臼・亜脱臼	0	0	0
	発育期に特有の下肢変形 (O脚・X脚など)、歩容異常	4	19	9
	脊柱変形	0	0	0
	ペルテス病	0	0	0
	筋骨格外傷および後遺症	0	0	0
	その他	2	12	7
精神神経疾患	その他	0	0	0
合 計		31	57	55

(3) 整形外科

障害別集計

(単位:人)

大分類	小分類	2023年度	2024年度	2025年度
中枢神経(脳・脊髄)疾患	脳性麻痺(疑い含む) 中枢性協調障害	0	0	1
	二分脊椎	0	1	1
	脳血管障害	0	0	0
	脳炎・脳症	0	0	0
	その他	0	0	2
(末梢)神経・筋疾患	筋ジストロフィー	1	0	0
	その他	0	1	0
先天異常・染色体異常など	ダウン症	0	0	0
	その他	0	6	8
原因不明の運動の遅れ		3	1	1
骨系統疾患	骨系統疾患	1	1	2
小児整形外科疾患	子宮内圧迫症候群	268	282	288
	斜頸	6	4	6
	先天性内反足・内転足など	6	12	9
	乳児股関節脱臼・垂脱臼	2	2	2
	発育期に特有の下肢変形 (O脚・X脚など)、歩容異常	29	15	17
	脊柱変形	32	44	34
	ペルテス病	0	0	0
	筋骨格外傷および後遺症	2	1	2
	その他	13	12	14
合 計		363	382	387

(4) 耳鼻咽喉科

障害別集計

(単位:人)

障害区分	大分類	2023年度	2024年度	2025年度
聴覚障害	難聴	65	54	77
音声機能障害	構音障害	21	29	23
	その他	4	1	2
言語機能障害	言語発達遅滞	3	1	0
合 計		93	85	102

(5) 児童精神科

障害別集計

(単位:人)

年度			2023年度	2024年度	2025年度
障害区分					
神経発達症	神経発達症群	知的発達症	12	1	1
		言語症	1	1	2
		自閉スペクトラム症 (言語発達遅滞あり)	17	10	6
		自閉スペクトラム症 (言語発達遅滞なし)	51	10	19
		特異的学習症	2	2	1
		発達性協調運動症	0	0	0
		チック症、トゥレット症候群	0	0	0
		注意欠陥多動症	21	11	6
		吃音症、その他の神経発達症	0	0	0
精神神経疾患	一時的な精神症など	統合失調症、気分症など	0	1	0
	不安関連症群	緘黙、社交不安症、分離不安症など	8	2	1
	強迫症群	身体への反復行動症など	0	1	1
	ストレス関連症群	反応性アタッチメント症 脱抑制性対人交流症 心的外傷後ストレス症など	1	1	1
	衝動制御症群など	間欠爆発症、反抗挑発症など	0	0	0
	その他	睡眠障害、遺尿・遺糞症、食行動症 など	1	0	0
その他	染色体、遺伝子の 異常など	ダウン症候群	0	0	0
		その他	0	0	0
	その他	不登校など	1	1	0
	音声機能障害	構音障害	0	0	1
合 計			115	41	39

B 診療・療育相談

(1) 外来児の取扱数（診療科別延人数）

（単位：人）

科名	年度	2023年度	2024年度	2025年度
小児科		6,051	6,420	6,425
整形外科		796	869	861
リハビリテーション科		966	1,020	1,004
耳鼻咽喉科		130	148	100
眼科		0	0	0
児童精神科		662	965	1,011
合 計		8,605	9,422	9,401

(2) 手術件数

（単位：件）

術名	年度	2023年度	2024年度	2025年度
選択的多数筋解離手術		3	3	2
股関節脱臼整復手術		0	0	0
脊柱変形矯正手術		10	9	6
骨切り手術（骨盤・大腿骨）		2	2	0
下肢変形矯正手術		1	3	4
足変形矯正手術（内反足、他）		4	2	8
抜釘手術		3	3	0
その他		4	4	4
合 計		27	26	24

(3) ボトックス治療実施件数

（単位：件）

項目	年度	2023年度	2024年度	2025年度
ボトックス治療		44	54	68

(4) 診療科別処方数

（単位：枚）

診療科	年度	2023年度	2024年度	2025年度
外 来	小児科	院内 7	1	2
		院外 1,624	1,722	1,959
	整形外科	院内 7	0	1
		院外 33	35	29
	リハ科	院内 3	4	0
		院外 7	14	4
	耳鼻咽喉科	院内 4	1	2
		院外 23	12	6
	児童精神科	院内 0	0	0
		院外 387	527	622
	眼科	院内 0	0	0
		院外 0	0	0
	外来計	院内 21	6	5
		院外 2,074	2,310	2,620
入 所	入所	103	120	116
合 計	[外来(院内)+入所]	124	126	121

(5) 診断書・意見書等作成件数

(単位:件)

項目 \ 年度	2023年度	2024年度	2025年度
特 別 児 童 扶 養 手 当	215	250	164
福 祉 手 当 診 断 書	23	21	21
特 別 障 害 者 手 当	4	0	0
身 体 障 害 者 手 帳	19	18	11
意 見 書 類	480	353	347
合 計	741	642	543

(6) 補装具作成件数(椅子など)

(単位:件)

項目 \ 年度	2023年度	2024年度	2025年度
車 椅 子	25	41	41
電 動 車 椅 子	3	1	0
座 位 保 持 装 置	9	17	23
そ の 他	13	12	10
合 計	50	71	74

(7) 補装具作成件数(装具)

(単位:件)

項目 \ 年度	2023年度	2024年度	2025年度
短 下 肢 装 具	50	62	73
靴・足底装具	45	51	43
アーチサポート	107	71	104
体 幹 装 具	26	31	35
長 下 肢 装 具	2	3	1
骨盤帯付長下肢装具	1	3	1
股 外 転 装 具	1	0	1
股 脱 治 療 装 具	0	3	3
頭 蓋 矯 正 装 具	0	0	0
そ の 他	77	70	43
合 計	309	294	304

(8) 放射線部位別撮影件数

(単位:件)

撮影部位 \ 年度	2023年度	2024年度	2025年度
頭 部	0	0	1
上 顎	0	0	0
ア デ ノ イ ド	0	0	0
胸 部	4	7	4
頸 椎	38	37	34
胸 椎	1	1	1
腰 椎	10	13	10
股 関 節	125	137	148
ラウエンスタイン	24	16	12
上 肢	3	3	2
手 根 骨	84	86	83
大 腿 骨	3	6	6
下 腿 骨	2	3	21
膝 関 節	12	7	8
足 関 節	4	6	4
足 部	29	41	40
全 脊 柱	324	381	353
下 肢 全 長	97	102	94
そ の 他	10	9	5
合 計	770	855	826

(9) 生理検査件数

(単位:件)

検査 \ 年度	2023年度	2024年度	2025年度
聴性脳幹反応 (ABR)	3	1	1
心 電 図	64	71	66
脳 波 検 査	15	12	9
屈 折 検 査	6	12	4

(10) 検体検査件数

(単位:件)

項目 \ 年度	2023年度	2024年度	2025年度
生 化 学 検 査	1,388	1,707	1,667
血 液 検 査	210	236	231
細 菌 検 査	32	27	14
血 清 検 査	0	0	0
一 般 検 査	8	9	0
病 理 検 査	0	0	0
染色体・遺伝子検査	0	0	0
薬 物 検 査	23	28	27
合 計	1,661	2,007	1,939

(11) 心理判定・心理治療件数 (単位:件)

年度		2023年度	2024年度	2025年度
件数				
新規	数	540	701	540
再来	数	511	485	358
合 計		1,051	1,186	898

(12) 心理判定・心理治療の障がい別実人数 (単位:人)

障害区分		年度	2023年度	2024年度	2025年度
中枢神経(脳・脊髄)疾患	脳性麻痺(疑い含む)、中枢性協調障害		0	0	1
	二分脊椎		0	0	0
	脳血管障害		0	0	0
	その他		2	0	0
(末梢)神経・筋疾患	筋ジストロフィー		0	2	0
	その他		2	0	0
先天性異常・染色体異常など	ダウン症		12	6	5
	その他		4	8	4
小児整形外科疾患	ペルテス病		0	1	0
	その他		0	0	0
聴覚障害		難聴	0	0	0
音声機能障害	構音障害		1	0	0
	その他		2	0	0
言語機能障害		言語発達遅滞	0	0	0
神経発達症	神経発達症群	知的発達症	88	69	48
		言語症	90	110	105
		自閉スペクトラム症	387	382	283
		自閉スペクトラム症	252	339	292
		特異的学習症	22	19	16
		発達性協調運動症	2	6	2
		注意欠如多動症	164	207	132
		吃音症、その他の神経発達症	2	8	2
精神神経疾患	不安関連症群	緘黙、社交不安症、分離不安症など	19	29	6
	強迫症群	身体への反復行動症など	0	0	0
	ストレス関連症群	反応性アタッチメント症、脱抑制性対人交流症、心的外傷後ストレス症など	1	0	0
	その他	睡眠障害、遺尿・遺糞症、食行動症など	0	0	0
その他		不登校など	1	0	2
合 計			1,051	1,186	898

(13) 心理治療技法別件数

(単位:件)

治療技法 \ 年度	2023年度	2024年度	2025年度
カウンセリング	33	77	60
特別外来(集団)	66	93	31
合 計	99	170	91

※2025年度は特別外来(集団)にペアレントトレーニングの件数は含まれていません。

(14) 種類別心理検査実施件数

(単位:件)

検査内容 \ 年度	2023年度	2024年度	2025年度
発達検査	新版K式	363	387
	遠城寺式	5	6
	VeinLand=Ⅱ	22	10
知能検査	田中ビネー	23	17
	WISC	131	145
	その他	0	1
性格検査	SCIT	0	0
	描画テスト	2	2
	その他	0	0
その他の検査	PARS	277	310
	ADHD評価スケール	128	135
	その他	1	3
合 計	952	1,016	807

(15) 医療ソーシャルワーカー相談件数

(単位:件)

内容 \ 年度	2023年度	2024年度	2025年度
インテーク受理	971	1,020	1,062
要保護・要支援児童対応	30	50	65

(16) 栄養指導延件数

(単位:件)

内容 \ 年度	2023年度		2024年度		2025年度	
	個別	集団	個別	集団	個別	集団
通所施設(つばさ・「オアシス」)	0	1	0	1	0	1
医療型障害児入所施設つくし園	0	0	0	0	0	0
外 来	6	0	7	1	9	1
合 計	6	1	7	2	9	2

(17) 外来講座実施状況 (2025年度)

(延べ人数)

テーマ	参加保護者	参加支援者
こどもの発達について		
診断(特性)について	76	0
はじめにすること(ST・OT)	70	0
はじめにすること-2ことば遅れあり(ST・OT)		
園・学校との付き合い方(SW)	69	0
コミュニケーション・理解(視覚的支援)	23	0
コミュニケーション・表出(PECS)	29	0
学童から思春期に大切にしたいこと	11	0
社会性・コミュニケーションについて	10	1
不注意・落ち着きのなさや学習問題について	10	0
構造化について	4	0
二次障がいについて	5	1
本人への告知について	7	1
年中セミナー	59	0
小1セミナー	54	0
小3セミナー	12	0
LDについて	24	0
計	463	3

1テーマにつき複数回ずつ実施している。表はその合計数。

C リハビリテーション（理学療法・作業療法・言語聴覚療法・音楽療法）

（１）理学療法の障がい別実施件数（延）

a. 外 来

（単位：件）

障害区分			年度	2023年度	2024年度	2025年度
中枢神経 (脳・脊髄)疾患			脳性麻痺(疑い含む)中枢性協調障害	1,631	1604	1427
			二分脊椎	248	191	174
			脳血管障害	53	39	50
			脳炎・脳症	163	181	172
			その他	333	289	157
(末梢)神経・筋疾患			筋ジストロフィー	200	227	213
			その他	106	54	51
先天性異常・染色体異常など			ダウン症	279	231	308
			その他	431	532	444
原因不明の運動の遅れ				576	642	580
骨系統疾患			骨系統疾患	12	49	26
小児整形外科疾患			子宮内圧迫症候群	0	0	16
			先天性内反足・内転足など	105	119	111
			乳児股関節脱臼・亜脱臼	61	50	16
			発育期特有の下肢変形、歩容異常	28	48	43
			脊柱変形	13	38	35
			ペルテス病	21	12	12
			筋骨格外傷および後遺症	24	21	24
			その他	37	36	48
神経発達症	神経発達症群	自閉スペクトラム症 (言語発達遅滞あり)	14	50	92	
		自閉スペクトラム症 (言語発達遅滞なし)	128	202	135	
		発達性協調運動症	107	107	134	
そ の 他			不登校など	0	0	0
合 計				4,570	4,722	4,268

b. 医療型障害児入所施設 つくし園

（単位：件）

障害区分		年度	2023年度	2024年度	2025年度
中枢神経 （脳・脊髄）疾患	脳性麻痺（疑い含む）中枢性協調障害		258	229	168
	二分脊椎		0	39	0
	脳炎・脳症		0	0	0
抹消神経・筋疾患	その他		29	0	0
骨系統疾患		骨系統疾患	68	57	606
小児整形外科疾患	乳児股関節脱臼・亜脱臼		39	29	0
	ペルテス病		0	0	0
合 計			394	354	774

(2) 理学療法の年齢別実施人数 (実数)

a. 外 来

(単位:人)

年齢 \ 年度	2023年度	2024年度	2025年度
0 歳	22	29	26
1 歳	45	49	68
2 歳	34	29	17
3 歳	23	20	22
4 歳	19	31	19
5 歳	20	22	26
6～12歳	96	106	107
13～17歳	39	51	46
18歳以上	17	6	3
合 計	315	343	334

b. 医療型障害児入所施設 つくし園

(単位:人)

年齢 \ 年度	2023年度	2024年度	2025年度
0 歳	0	0	0
1 歳	0	0	0
2 歳	0	0	0
3 歳	0	0	1
4 歳	1	2	0
5 歳	4	1	2
6～12歳	3	4	10
13歳以上	2	1	3
合 計	10	8	16

(3) 作業療法の障がい別実施件数 (延)

a. 外 来

(単位:件)

障害区分		年度	2023年度	2024年度	2025年度
中枢神経 (脳・脊髄)疾患	脳性麻痺(疑い含む)中枢性協調障害		391	294	307
	二分脊椎		43	54	62
	脳血管障害		18	71	62
	脳炎・脳症		25	49	53
	その他		59	68	54
(末梢)神経・筋疾患	筋ジストロフィー・その他		37	46	39
先天性異常 染色体異常など	ダウン症		160	97	76
	その他		114	119	113
原因不明の運動の遅れ			155	53	69
骨系統疾患		骨系統疾患	0	0	0
小児整形外科疾患	先天性内反足・内転足など		0	0	7
	筋骨格外傷および後遺症		3	0	0
	その他		0	67	38
神経発達症	神経発達症群	知的発達症	106	199	162
		言語症	154	32	89
		自閉スペクトラム症 (言語発達遅滞あり)	1,172	655	858
		自閉スペクトラム症 (言語発達遅滞なし)	434	495	638
		特異的学習症	12	18	8
		発達性協調運動症	167	39	90
		注意欠如多動症	32	13	23
		吃音症、その他の神経発達症	1	23	37
精神神経疾患	不安関連症群	緘黙、社交不安症、分離不安症など	30	1	3
合 計			3,113	2,393	2,788

b. 医療型障害児入所施設 つくし園

(単位:件)

障害区分		年度	2023年度	2024年度	2025年度
中枢神経 (脳・脊髄)疾患		脳性麻痺(疑い含む)中枢性協調障害	23	0	50
		二分脊椎	0	20	0
小児整形外科疾患		その他	0	88	0
神経 発達症	神経発達症群	特異的学習症	0	0	0
		発達性協調運動症	0	11	27
合 計			23	119	77

(4) 作業療法の年齢別実施人数 (実数)

a. 外 来

(単位:人)

年齢 \ 年度	2023年度	2024年度	2025年度
0 歳	0	0	1
1 歳	15	9	5
2 歳	84	75	80
3 歳	94	118	114
4 歳	96	110	133
5 歳	95	103	103
6~12歳	75	80	66
13~17歳	9	6	4
18歳以上	3	3	0
合 計	471	504	506

b. 医療型障害児入所施設 つくし園

(単位:人)

年齢 \ 年度	2023年度	2024年度	2025年度
0 歳	0	3	0
1 歳	0	0	0
2 歳	0	0	0
3 歳	0	0	1
4 歳	1	0	0
5 歳	1	0	1
6~12歳	0	1	2
13歳以上	0	0	0
合 計	2	4	4

(5) 言語聴覚療法の障がい別実施件数(延)

a. 外 来

(単位:件)

障害区分			年度	2023年度	2024年度	2025年度
中枢神経 (脳・脊髄)疾患			脳性麻痺(疑い含む)中枢性協調障害	67	62	73
			二分脊椎	0	0	0
			脳血管障害	92	30	16
			脳炎・脳症	34	9	26
			その他	53	113	72
(末梢)神経・筋疾患			筋ジストロフィー	3	9	17
			その他	5	0	22
先天性異常・染色体異常 など			ダウン症	224	212	183
			その他	79	263	192
原因不明の運動の遅れ				41	9	39
小児整形外科疾患			その他	0	0	7
聴覚障害			難聴	189	267	179
音声機能障害			構音障害	287	355	296
神経 発達 症	神経発達症群		知的発達症	127	125	85
			言語症	1,780	1,384	1,185
			自閉スペクトラム症 (言語発達遅滞あり)	2,091	2,637	2,807
			自閉スペクトラム症 (言語発達遅滞なし)	158	146	216
			特異的学習症	47	44	64
			注意欠如多動症	27	39	62
			吃音症、その他の神経発達症	52	60	238
			精神 神経 疾患	不安関連症群		
緘黙、社交不安症、分離不安症など	17	23				31
合 計				5,373	5,787	5,810

b. 医療型障害児入所施設 つくし園

(単位:件)

障害区分			年度	2023年度	2024年度	2025年度
中枢神経 (脳・脊髄)疾患		脳性麻痺(疑い含む)中枢性協調障害		0	0	2
		脳血管障害		0	0	0
先天性異常など		その他、末梢神経疾患		0	0	0
小児整形外科疾患		ペルテス病		0	0	0
神経 発達 症	神経発達症群	知的発達症		0	4	0
合 計				0	4	2

(6) 言語聴覚療法の年齢別実施人数 (実数)

a. 外 来

(単位:人)

年齢 \ 年度	2023年度	2024年度	2025年度
0 歳	2	2	10
1 歳	20	31	35
2 歳	70	104	95
3 歳	200	191	213
4 歳	217	209	216
5 歳	167	212	208
6～12歳	152	165	166
13～17歳	4	4	8
18歳以上	5	3	2
合 計	837	921	953

b. 医療型障害児入所施設 つくし園

(単位:人)

年齢 \ 年度	2023年度	2024年度	2025年度
0 歳	0	0	0
1 歳	0	0	0
2 歳	0	0	0
3 歳	0	1	0
4 歳	0	0	0
5 歳	0	0	0
6～12歳	0	0	1
13歳以上	0	0	0
合 計	0	1	1

(7) 音楽療法の障がい別実施件数 (延)

a. 医療型障害児入所施設 つくし園

(単位:件)

障害区分		年度	2023年度	2024年度	2025年度
中枢神経 (脳・脊髄)疾患	脳性麻痺(疑い含む)中枢性協調障害		126	46	183
	二分脊椎		0	12	0
	脳血管障害		0	1	1
	脳炎・脳症		1	0	37
	その他		6	4	0
先天性異常・染色体異常 など		その他	11	1	20
小児整形外科疾患	乳児股関節脱臼・亜脱臼		22	9	0
	ペルテス病		0	0	0
	その他		11	0	42
神経 発達 症	神経発達症群	知的発達症	72	11	6
合 計			249	84	289

b. 児童発達支援センター つばさ

(単位:件)

障害区分			年度	2023年度	2024年度	2025年度
中枢神経 (脳・脊髄)疾患	脳性麻痺(疑い含む)中枢性協調障害		18	2	0	
	脳炎・脳症		0	0	0	
	その他		17	0	0	
先天性異常・染色体異常 など	ダウン症		46	0	0	
	その他		84	4	0	
原因不明の運動の遅れ			17	0	34	
神経 発達 症	神経発達症群	自閉スペクトラム症 (言語発達遅滞あり)	197	21	167	
合 計			379	27	201	

c. 生活介護事業所「オアシス」

(単位:件)

障害区分		年度	2023年度	2024年度
中枢神経 (脳・脊髄)疾患	脳性麻痺(疑い含む)中枢性協調障害		183	22
	脳炎・脳症		11	1
	その他		72	10
先天性異常・染色体異常 など	その他		31	2
合 計			297	35

(8) 音楽療法の年齢別実施人数 (実数)

a. 医療型障害児入所施設 つくし園

(単位:人)

年齢 \ 年度	2023年度	2024年度	2025年度
0 歳	0	0	0
1 歳	0	0	1
2 歳	0	0	1
3 歳	0	0	2
4 歳	1	2	0
5 歳	6	1	3
6~12歳	5	2	11
13歳以上	19	1	35
合 計	31	6	53

b. 児童発達支援センター つばさ

(単位:人)

年齢 \ 年度	2023年度	2024年度	2025年度
0 歳	0	0	0
1 歳	3	1	1
2 歳	14	8	6
3 歳	17	7	20
4 歳	4	1	5
5 歳	2	0	0
6 歳	0	0	0
合 計	40	17	32

c. 生活介護事業所「オアシス」

(単位:人)

年齢 \ 年度	2023年度	2024年度
18~20歳	4	1
21~30歳	12	10
30歳以上	6	6
合 計	22	17

2 福祉施設部門

A 医療型障害児入所施設 つくし園

(1) 月別在籍数(初日現在)

(単位:人)

年度 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2023年度	3	3	2	2	2	3	3	1	2	3	2	2
2024年度	3	5	4	4	1	2	2	2	3	2	2	2
2025年度	2	2	4	3	6	5	5	4	5	5	5	4

(2) 障がい別集計 ※短期入所児は除く

(単位:人)

障害の区分			年度	2023年度	2024年度	2025年度
中枢神経(脳・脊髄)疾患	脳性麻痺(疑い含む) 中枢性協調障害			4	4	4
	二分脊椎			1	1	0
	脳血管障害			0	0	0
	その他			0	1	0
末梢神経疾患		その他		0	0	0
小児整形外科疾患		乳児股関節脱臼・亜脱臼		2	3	0
		ペルテス病		0	0	0
		その他		1	1	9
神経発達症	神経発達症群	知的発達症		1	1	0
合 計				9	11	13

(3) 年齢別集計(入所時)

(単位:人)

年齢 \ 年度	2023年度	2024年度	2025年度
0 歳	0	3	0
1 歳	0	0	0
2 歳	0	0	0
3 歳	0	0	2
4 歳	2	2	0
5 歳	3	0	2
6~12歳	2	5	7
13~17歳	2	1	2
合 計	9	11	13

(4) 住所別集計

(単位:人)

住所 \ 年度	2023年度	2024年度	2025年度
福 井 市	6	6	9
永 平 寺 町	1	0	0
坂 井 市	0	0	0
鯖 江 市	0	0	1
あ わ ら 市	0	0	0
越 前 市	0	1	2
越 前 町	0	0	1
大 野 市	0	1	0
南 越 前 町	0	1	0
敦 賀 市	2	2	0
合 計	9	11	13

・表の住所:こども療育センターから直線距離で近い順

(5) 進路別集計(退所時)

(単位:人)

進路 \ 年度	2023年度	2024年度	2025年度
特 別 支 援 学 校	3	2	3
特 別 支 援 学 級	0	0	1
高 校	0	0	0
中 学 校	0	0	0
小 学 校	1	1	2
幼 稚 園 ・ 保 育 所	5	3	3
他 の 福 祉 施 設	0	1	0
在 宅	0	3	1
転 院	0	0	0
死 亡	0	0	0
合 計	9	10	10

(6) 在籍期間別集計(退所時)

(単位:人)

期間 \ 年度	2023年度	2024年度	2025年度
3 ヶ 月 未 満	7	8	7
6 ヶ 月 未 満	1	1	2
1 年 未 満	0	1	1
2 年 未 満	0	0	0
3 年 未 満	0	0	0
3 年 以 上	1	0	0
合 計	9	10	10

(7) 重複症状別人数

知的障害 の程度	IQ	動作能力の 制限	走れる	歩ける	歩行障害	座れる	寝たきり
		年度					
なし	86以上	2023年度	2	0	1	0	0
		2024年度	0	1	0	0	0
		2025年度	7	0	0	0	0
境界域	76～85	2023年度	0	0	0	0	1
		2024年度	0	0	0	0	0
		2025年度	0	0	0	0	0
軽度	51～75	2023年度	0	0	0	0	0
		2024年度	0	0	3	0	0
		2025年度	0	2	0	0	0
中度	36～50	2023年度	0	0	0	0	0
		2024年度	0	0	0	1	0
		2025年度	0	0	0	1	0
重度	21～35	2023年度	0	0	0	0	0
		2024年度	0	0	0	0	1
		2025年度	0	0	0	0	0
最重度	20以下	2023年度	0	0	0	0	3
		2024年度	0	0	0	1	1
		2025年度	0	0	0	0	3

・重症心身障害：“重度から最重度”の知的障害と“寝たきり”もしくは“座れる”レベルの
動作能力の制限とを併せ持つ状態(大島分類)

・上記集計には、バルテス病・股関節脱臼は含まない

B 児童発達支援センター つばさ

(1) 月別在籍数(初日現在)

(単位:人)

年度 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2023年度	23	28	32	33	35	37	36	34	34	29	29	29
2024年度	15	17	15	16	18	18	16	17	21	20	23	23
2025年度	15	17	18	21	23	24	25	26	27	29	30	31

(2) 障がい別集計

(単位:人)

障害の区分		年度	2023年度	2024年度	2025年度
中枢神経(脳・脊髄)疾患	脳性麻痺(疑い含む) 中枢性協調障害		2	1	0
	二分脊椎		0	0	0
	脳血管障害		0	0	0
	脳炎・脳症		0	0	0
	その他		0	0	1
(末梢)神経・筋疾患	筋ジストロフィー		1	1	0
	その他		0	0	0
先天性異常・染色体異常 など	ダウン症		3	0	0
	その他		6	3	1
原因不明の運動の遅れ			0	1	4
骨系統疾患	骨系統疾患		0	0	0
小児整形外科疾患	子宮内圧迫症候群		0	0	0
	斜頸		0	0	0
	先天性内反足・内転足など		0	0	0
	乳児股関節脱臼・亜脱臼		0	0	0
	発達期に特有の下肢変形 (O脚・X脚)		0	0	0
	脊椎変形		0	0	0
	ペルテス病		0	0	0
	外骨格外傷および後遺症		0	0	0
	その他		0	0	0
神経発達症候群	自閉症スペクトラム (言語発達遅延あり)		28	25	29
	自閉症スペクトラム (言語発達遅延なし)		0	0	1
	発達性学習症		0	0	0
	発達性協調運動症		0	0	0
	チック症、トゥレット症候群		0	0	0
	注意欠陥多動性症		0	0	0
	その他神経発達症		0	0	0
	合計		40	31	36

(3) 年齢別集計 (通所開始時)

(単位:人)

年齢 \ 年度	2023年度	2024年度	2025年度
0 歳	0	0	0
1 歳	4	2	2
2 歳	18	13	15
3 歳	14	14	17
4 歳	2	2	2
5 歳	2	0	0
6 歳	0	0	0
合 計	40	31	36

(4) 住所別集計

(単位:人)

住所 \ 年度	2023年度	2024年度	2025年度
福 井 市	21	18	16
坂 井 市	3	5	8
鯖 江 市	4	4	4
あわら市	2	2	3
越 前 市	5	1	3
越 前 町	2	0	0
勝 山 市	0	0	0
大 野 市	1	0	0
南越前町	0	0	0
永平寺町	1	1	2
美 浜 町	1	0	0
合 計	71	67	36

・表の住所:こども療育センターから直線距離で近い順

(5) 進路別集計 (退所時)

(単位:人)

進路 \ 年度	2023年度	2024年度	2025年度
児 童 福 祉 施 設	0	1	0
特 別 支 援 学 校	2	0	0
特 別 支 援 校 (盲 ・ ろ う) 学 校 (幼 稚 部 含 む)	0	0	0
小 学 校	0	0	0
幼 稚 園 ・ 保 育 所	23	15	10
在 宅 (未 就 学 ・ 未 就 園)	0	0	0
そ の 他	0	0	0
合 計	25	16	10

(6) 在籍期間別集計(退所時)

(単位:人)

期間 \ 年度	2023年度	2024年度	2025年度
3ヶ月未満	0	1	0
6ヶ月未満	0	1	3
1年未満	7	6	1
2年未満	18	6	4
3年未満	0	3	2
3年以上	0	0	0
合計	25	17	10

(7) 重複症状別人数

(単位:人)

知的障害の程度	IQ	動作能力の制限 \ 年度	走れる	歩ける	歩行障害	座れる	寝たきり
なし	86以上	2023年度	0	0	0	0	0
		2024年度	0	0	0	0	0
		2025年度	0	0	0	0	0
境界域	76～85	2023年度	7	0	0	0	0
		2024年度	8	0	0	0	0
		2025年度	2	0	0	0	0
軽度	51～75	2023年度	21	2	0	2	1
		2024年度	14	0	1	1	0
		2025年度	19	1	0	0	0
中度	36～50	2023年度	1	4	0	0	1
		2024年度	4	1	0	0	1
		2025年度	8	1	1	0	0
重度	21～35	2023年度	0	0	0	1	0
		2024年度	0	0	1	0	0
		2025年度	0	0	1	0	2
最重度	20以下	2023年度	0	0	0	0	0
		2024年度	0	0	0	0	0
		2025年度	0	0	0	0	1

・重症心身障害: “重度から最重度”の知的障害と“寝たきり”もしくは“座れる”レベルの動作能力の制限とを併せ持つ状態(大島分類)

・2023年4月以前に入園した児は2023年4月1日付の状況、年度途中に入園した児は入園時の状況

(8) 水治療室利用件数

(単位:件)

年度 \ 月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2023年度	児	13	14	24	26	28	30	15	13	12	0	14	0	189
	保護者	13	14	24	26	28	30	15	13	12	0	14	0	189
2024年度	児	0	0	0	16	17	8	8	8	7	20	13	13	110
	保護者	0	0	0	16	18	8	8	8	7	20	13	13	111
2025年度	児	13	11	25	15	12	27	17	21	16	13	12	31	213
	保護者	13	11	26	15	13	27	17	22	16	13	12	31	216

C 生活介護事業所「オアシス」

※2025年3月をもって、再整備により重症心身障害児(者)通園事業A型「オアシス」は閉所となった。

(1) 月別在籍数(初日現在)

(単位:人)

年度 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2023年度	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21
2024年度	18	18	18	18	18	18	18	17	16	16	16	16

(2) 月別利用者延べ人数

(単位:人)

年度 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2023年度	106	104	121	106	117	107	108	103	105	100	98	106	1,281
2024年度	95	93	86	90	84	74	100	84	76	70	69	63	984

(3) 障がい別集計

(単位:人)

障害区分		年度	2023年度	2024年度
中枢神経(脳・脊髄)疾患	脳性麻痺(疑い含む)、 中枢性協調障害		12	10
	脳血管障害		0	0
	脳炎・脳症		1	1
	その他		5	5
先天性異常・染色体異常 など	ダウン症		0	0
	その他		3	2
合 計			21	18

(4) 年齢別集計(年度開始時)

(単位:人)

年齢 \ 年度	2023年度	2024年度
18～20歳	3	1
21～30歳	12	12
31歳以上	6	5
合 計	21	18

(5) 住所別集計

(単位:人)

住所 \ 年度	2023年度	2024年度
福井市	14	12
坂井市	6	5
鯖江市	1	1
合 計	21	18

・表の住所:こども療育センターから直線距離で近い順

(6) 入浴利用者延べ人数

(単位:人)

年度 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2023年度	71	74	85	74	83	75	75	72	72	69	69	72	891
2024年度	67	63	56	63	61	0	0	0	0	0	0	0	310

※9～3月は浴槽工事のため入浴は休止。

(7) バス通所利用者数延べ人数

(単位:人)

年度 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2023年度	51	48	63	54	57	53	54	52	54	49	54	53	642
2024年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※運転手不足で受託施設が見つからず、2024年度からはバス運行を終了。

(8) 重複症状別人数

(単位:人)

知的障害の程度	IQ	動作能力 の制限 \ 年度	走れる	歩ける	歩行障害	座れる	寝たきり
軽度	51～75	2023年度	0	0	0	0	0
		2024年度	0	0	0	0	0
中度	36～50	2023年度	0	0	0	0	0
		2024年度	0	0	0	0	0
重度	21～35	2023年度	0	0	0	0	4
		2024年度	0	0	0	0	3
最重度	20以下	2023年度	0	0	0	5	13
		2024年度	0	0	0	4	14

・重症心身障害:“重度から最重度”の知的障害と“寝たきり”もしくは“座れる”レベルの動作能力の制限とを併せ持つ状態(大島分類)

D 短期入所

(1) 利用件数

(単位：人)

年 度	2023年度		2024年度		2025年度	
	実人員	延人数	実人員	延人数	実人員	延人数
合 計	45	1,594 (306)	49	1,399 (204)	60	2,279 (902)

・()は日帰り延べ人数

(2) 重複症状別人数

(単位：人)

知的 障害 の程度	IQ	動作能力 の制限	走れる	歩ける	歩行障害	座れる	寝たきり
		年度					
なし	86以上	2023年度	0	0	0	0	2
		2024年度	0	0	0	0	2
		2025年度	0	0	0	0	1
境界域	76～85	2023年度	0	0	0	0	1
		2024年度	0	0	0	0	1
		2025年度	0	0	0	0	1
軽度	51～75	2023年度	0	0	0	1	0
		2024年度	0	0	0	1	0
		2025年度	0	0	0	1	0
中度	36～50	2023年度	0	0	0	0	0
		2024年度	0	0	0	0	0
		2025年度	0	0	0	0	1
重度	21～35	2023年度	0	1	0	0	3
		2024年度	0	1	0	0	4
		2025年度	0	1	1	3	5
最重度	20以下	2023年度	0	0	1	6	29
		2024年度	0	0	2	6	33
		2025年度	0	1	1	7	37

・重症心身障害：“重度から最重度”の知的障害と“寝たきり”もしくは“座れる”レベルの動作能力の制限とを併せ持つ状態(大島分類)

(3) 入浴利用数延べ件数

(単位：件)

	2025年度
合計	772

3 地域支援活動

A 療育研修会

事業 \ 年度	2023年度	2024年度	2025年度
開催数	2	2	2
参加者数	209	114	208

2025年度療育研修会 内容

【第1回 2025年8月22日(金) 13:30～16:30】

場所:越前市市民プラザたけふ 4階 多目的ホール

主催:こども療育センター 共催:越前市

テーマ

『今、知りたい！こども療育センターのこと』

①『診断(特性)について』 こども療育センター小児科医 熊野 麻美

②『発達検査からわかること』 福井大学学術研究院教育・人文社会系部門准教授
心理士 藤岡 徹先生

③『作業療法士の視点と評価』 こども療育センター作業療法士 吉村 あかね

④『言語聴覚士の視点と評価』 こども療育センター言語聴覚士 笠原 恵

【第1回療育研修会オンデマンド配信】

申込件数 182件

【第2回 2025年10月19日(日) 10:00～16:00】

場所:福井県こども療育センター 2階 研修室・会議室

テーマ

『重症心身障害児・医療的ケア児の成人期への移行を考える』

《第1部》こども療育センター内見学会

《第2部》講演

講演①『成人期移行の支援について～重症心身障害児・医療的ケア者の支援～』
宮城県立こども病院神経科 遠藤 若葉先生（オンライン参加）

講演②『福井県内の現状』 こども療育センター小児科医 川谷 正男

《第3部》グループワーク

『話そう！課題と自分たちができること』

B 療育支援活動

(1) 診療科別実施状況

a.小児科・児童精神科

派遣場所	対象・業務内容など	回数	内容分類				
			個別 相談	保護者 支援	職員 支援	検診	会議 講義
坂井市市役所	令和7年度母子保健関係 職員勉強会	1			○		○
福井県特別支援教育セ ンター	令和7年度医療的ケア特 定行為従事者(教員)研修	1			○		○
福井県立看護学校	小児看護学講義	1					○
福井市役所、きらら館	福井市特別支援教育専門 委員会・地区別連絡会議	5			○		○
オンライン	福井大学教育学部附属特 別支援学校評議委員会	3					○
小浜市健康管理セン ター	令和7年度小浜市保健師 対象学習会	1			○		○
ユーアイ福井	令和7年度 福井県特別支 援教育センター研修講座	1			○		○
オンライン	令和7年度 福井県栄養士 会生涯教育研修会	1			○		○
きらら館	福井市発達障がい児支援 研修会	1			○		○
アイアイ鯖江	鯖江市発達障がい児支援 研修会	3			○		○

b.整形外科

派遣場所	対象・業務内容など	回数	内容分類					
			個別 相談	保護者 支援	職員 支援	検診	会議 講義	診療
市立敦賀病院 小児整形外科相談外来	嶺南地区の児童	5	27					

c.耳鼻咽喉科

派遣場所	対象・業務内容など	回数	内容分類				
			個別 相談	保護者 支援	職員 支援	検診	会議 講義
特別教育支援センター	特別支援学校入学児の判定	2					○
盲学校	耳鼻科検診	1				○	

d.耳鼻咽喉科・地域支援課(ST)

派遣場所	対象・業務内容など	回数
福井県こども療育センター	福井県聴覚障がい児支援連携連絡会	3

(2) 地域支援課実施状況

a) センター主催研修

事業名	受講状況	内容分類				
		個別 相談	保護者 支援	職員 支援	健診	会議 講義
小児療育担当職員等実務研修 (1週間コース)	4クール 7名			○		
小児療育担当職員等実務研修 (ペアプロコース)	3クール 10名			○		
ペアレント・プログラム	17名		○			
子育て講座	16回 92名		○	○		
出前講座「ほめるコツ ～ペアレント・プログラムのエッセ ンス～」	6件 (園・学校等)			○		
	13件 (児発・放デイ等)			○		
出前講座「リハシル」	7件 (園・学校等)			○		
	6件 (児発・放デイ等)			○		

b) 地域からの依頼

事業名	受講状況	内容分類				
		個別 相談	保護者 支援	職員 支援	健診	会議 講義
医療的ケア児等支援者養成研修	1回 50名程度					○
仁愛大学子ども教育学科 特別講義	1回 50名					○
県立看護専門学校特別講義	1回 40名					○
坂井地区障害児者総合支援協 議会支援者研修会	55名			○		
坂井地区母子保健勉強会	2回 83名			○		

(3) 特別支援学校リハビリ相談事業～リハイク～実施状況

a. 特別支援学校(特別支援学校リハビリ相談事業～リハイク～)

相談(延べ人数)

学校名	申込 件数	PT	OT	ST	心理
奥越特別支援学校	6	1	13	5	0
清水特別支援学校	1	1	3	0	0
南越特別支援学校	23	14	23	30	1
福井特別支援学校	0	0	0	0	0
福井南特別支援学校	1	1	0	1	0
福井東特別支援学校	0	0	0	0	0
福井大学教育地域科学 部附属特別支援学校	3	3	2	4	0
盲学校	0	0	0	0	0
嶺南西特別支援学校	2	2	0	3	0
嶺南東特別支援学校	13	5	13	15	3
嶺北特別支援学校	15	6	17	19	7
ろう学校	0	0	0	0	0
計	64	33	71	77	11

相談(延べ人数)

支援内容	PT	OT	ST	心理
姿勢	8	0	0	0
運動	11	0	0	0
呼吸	0	0	0	0
生活動作	0	20	0	0
学習・作業	0	18	0	0
言語理解	0	0	8	0
言語表出	0	0	21	0
構音	0	0	24	0
摂食	0	0	9	0
課題整理	0	1	0	1
計	19	39	62	1

C. こども療育センター地域サポート事業

a. 医療機関

派遣場所	職種	回数	件数		内容分類				
			診療	相談	個別相談	保護者支援	職員支援	会議	診療
杉田玄白記念公立小浜病院	理学療法士	6	6	4	○	○	○		○
	作業療法士	3	2	6	○	○	○		○
	言語聴覚士	12	5	21	○	○	○	○	○
市立敦賀病院	理学療法士	2	4	4	○	○	○		○
	作業療法士	3	5	7	○	○	○		○
	言語聴覚士	12	3	32	○	○	○	○	○

b. 児童発達支援センター

2024年度より保護者を対象とした個別・集団療育支援から支援者対象の支援に完全移行した

派遣場所	職種	回数 (学習会)	件数	内容分類				
				個別相談	保護者支援	職員支援	会議	診療
敦賀市立 子ども発達支援センター パラレル	理学療法士	1(1)	15			○		
	言語聴覚士	1(1)	9			○		
	公認心理師	1(1)	18			○		
小浜市 母と子の家 児童発達支援センター CokoUta	言語聴覚士	3(3)	17			○	○	
	公認心理師	2(2)	19			○		
	保育士	2(2)	12			○		

c. 市町

療法士：理学療法士 作業療法士 言語聴覚士

派遣先・事業内容など		職種	回数 (学習会)	件数	内容分類				
					個別相談	保護者支援	職員支援	会議	診療
坂井市	母子保健推進員 研修会	言語聴覚士	1(1)	16			○		
福井市	小中学校障がい 児介助員研修	理学療法士	1(1)	25			○		
敦賀市	乳幼児健診後経 過観察教室	療法士 公認心理士	5(5)	16	○	○	○	○	
	発達支援教室	療法士 公認心理士	8	37	○	○	○	○	
	保育士研修会	公認心理士	1(1)	23			○	○	
	子育て講座	作業療法士 言語聴覚士	1(1)	14	○	○	○		
	保護者学習会	理学療法士 言語聴覚士	1(1)	14	○	○	○	○	

c. 市町（続き）

療法士：理学療法士 作業療法士 言語聴覚士

派遣先・事業内容など		職種	回数 (学習会)	件数	内容分類				
					個別 相談	保護者 支援	職員 支援	会議	診療
小浜市	乳幼児健診後経過観察教室	療法士 公認心理師	11(7)	107	○	○	○	○	
	保育士会年齢別研究会	公認心理師 言語聴覚士	2(2)	27			○	○	
	保健師研修会	医師 療法士 公認心理士	1(1)	9			○	○	
	子育て相談会	公認心理師	1(1)	7	○	○	○		
美浜町	2歳児育児教室	療法士	3(3)	29	○	○	○	○	
若狭町	2歳児育児教室	公認心理師 療法士	9(9)	54	○	○	○	○	
	子育て支援センター 育児講座	公認心理師	1	4	○	○	○	○	
	発達支援学習会	公認心理師 言語聴覚士 作業療法士	2(2)	28			○	○	
おおい町	乳幼児健診後経過観察教室	公認心理師 療法士	11(4)	44	○	○	○	○	
	親子遊びの教室 ぐんぐん	公認心理師 療法士	10	35	○	○	○	○	
高浜町	乳幼児健診後経過観察教室	公認心理師 療法士	11	31	○	○	○	○	
	乳幼児健診後経過観察教室	公認心理師 療法士	10	28	○	○	○	○	
	子育て支援センター 育児講座	言語聴覚士	1(1)	4	○	○	○		

※嶺北市町に対しては、ヒヤリング調査として全市町を訪問し現状や課題の把握を行った。

d. 市町講演

(単位：人)

	事業	講師	参加保護者	参加支援者
坂井市	母子保健推進員研修会	言語聴覚士		16
敦賀市	育児講座	作業療法士 言語聴覚士	14	
	ことばの教室	理学療法士 言語聴覚士	14	
	保育士等研修会	心理士		23
小浜市	保健師対象研修会	小児科医 心理士 理学療法士 作業療法士 言語聴覚士		9
	保育士年齢別研修会	心理士 言語聴覚士		15
	保育士研究会	心理士 言語聴覚士		12
	子育て相談会	心理士	7	
若狭町	発達支援学習会	言語聴覚士		13
		心理士 作業療法士		15
	すくすく広場	心理士	4	
高浜町	こといくひろば	言語聴覚士	4	

保護者対象ミニ講座

	事業	講師	実施回数	のべ参加者
敦賀市	乳幼児健診後経過観察教室	言語聴覚士	5	16
美浜町	2歳児育児教室	言語聴覚士	3	29
若狭町	2歳児育児教室	心理士	9	54
小浜市	乳幼児健診後経過観察教室	理学療法士 作業療法士 言語聴覚士 心理士	7	64
おおい町	乳幼児健診後経過観察教室	言語聴覚士	4	14

e. 地域連携強化研修会

敦賀市・美浜町支援者研修会

2025年11月13日（木）13:30-15:15

会場：敦賀市福祉総合センター あいあいプラザ

講演：

「幼児期の発達外来とは～診察・検査・診断・療育について～」

敦賀病院発達外来担当 小児科医 竹内 恵子先生

グループワーク：

「受診後の保護者をどう支える？」

参加者：31名

D 子育て講座実施状況

テーマ	(延べ人数)	
	参加保護者	参加支援者
子育てのコツと工夫	23	7
ほめるコツ～ペアレント・プログラムのエッセンス～	13	8
生行動作のコツ	6	1
ことばの育ちとコミュニケーション	22	7
ストレスセルフケアについて	3	2
計	67	25

*1テーマにつき複数回ずつ実施している。表はその合計数。

4 その他の活動

A ボランティア活動

(1) ボランティアの受入状況（延人数）

（単位：人）

ボランティア		年度	2023年度	2024年度	2025年度
団体	実 人 員		22	19	5
	延 人 数		0	16	5

B 実習・見学

(1) 実習生研修状況

（単位：人）

研修		年度	2023年度	2024年度	2025年度
保 育	実 人 員		4	4	2
	延 人 数		40	20	20
作 業 療 法	実 人 員		1	0	0
	延 人 数		43	0	0
理 学 療 法	実 人 員		0	0	0
	延 人 数		0	0	0
言語聴覚療法	実 人 員		0	7	1
	延 人 数		0	7	1
心 理	実 人 員		2	2	0
	延 人 数		16	2	0
看 護	実 人 員		42	17	49
	延 人 数		48	17	55
医 師	実 人 員		4	0	0
	延 人 数		4	0	0

(2) 施設見学・視察受入状況

視察・見学		年度	2023年度	2024年度	2025年度
件 数	件 数		142	116	132
	人 数		184	153	215

C 水治療室の利用者別実施人数（延）

（単位：人）

部門		年度	2023年度	2024年度	2025年度
理 学 療 法			492	568	656
児童発達支援センター つばさ			278	221	429
福井東特別支援学校			118	89	74
合 計			888	878	1,159

Ⅲ 研究業績

1 学会発表

・川谷 正男(医師)

年月日	2025 年 7 月 13 日
場 所	福井大学医学部附属病院臨床教育研修センター白翁会ホール
名 称	第 75 回福井県小児保健協会シンポジウム
タイトル	発達障がいにおける栄養の問題
要 旨	福井県小児保健協会シンポジウムでシンポジストを担当した。内容は、発達障がいの特徴と栄養(摂食)の問題との関連、特に偏食の現状と対応、自閉スペクトラム症の特性に応じた適切な対応についての講演を行った。

・熊野 麻美(医師)

年月日	2025 年 6 月 28 日
場 所	金沢駅東もてなしドーム地下広場
名 称	第 72 回小児保健協会学術集会
タイトル	福井県における保育カウンセラー配置事業について
要 旨	現在福井県 17 市町中 16 市町が『保育カウンセラー配置事業』に参加し、R6 年度は計 46 名が保育カウンセラーとして活動している。巡回支援専門員整備事業が任意の市町村事業として始まり、5 歳児健診の体制整備を各市町村は求められているところであり、それらの事業と絡めて、今後保育カウンセラー配置事業をどのように展開、活用していくとよいかが課題となっている。保育カウンセラー配置事業の果たす役割について R6 年度に登録のある保育カウンセラーにアンケートを実施しその結果を報告した。多くの保育カウンセラーが 5 歳児健診前後で気がかり児への支援、就学相談の足掛かりの役割を担えるとういと考えていた。すでに 5 歳児健診を実施している市では保育カウンセラーが密接に関与しており、モデルケースとして各市町で保育カウンセラーの活用を検討していけるとよいと考える。巡回支援専門員整備事業、保育カウンセラー配置事業どちらも利用し、地域支援体制の充実に繋がれるとういと考えている人が多かった。令和 6 年度当県で巡回支援専門員整備事業を活用した市町は 1 市のみであったが、現場で支援する保育カウンセラーはどちらも活用できるとよいと考えていた。今後の保育カウンセラー配置事業の展開、活用について現場の意見も反映し事業実施方法について検討を重ねていく必要がある。

・木下 美智子(作業療法士)

年月日	2025 年 12 月 7 日
場 所	市民プラザたけふ
名 称	第 12 回 福井県作業療法学会
タイトル	ASD 児に対するあそびとコミュニケーションの介入～OTST の協働～
要 旨	自閉スペクトラム症(ASD)児は乳幼児健診で「指さしをしない」「目が合いにくい」「一人遊びが多い」など、言葉の遅れや遊び方に関する指摘を受けることが多い。当センターに紹介され、小児科受診後に作業療法(OT)や言語療法(ST)が処方されるケースが多くなっている。今回、ASD 児に対し OT の直接介入および OT・ST の協働介入を行い、単調な一人遊びから他者を交えた遊びへ変化し、他者と視線が合う、表出手段の拡大などコミュニケーションの効果が見られたので報告する。

・岩井裕子(看護師)

年月日	2025年 11月21日
場 所	愛知県青い鳥医療療育センター
名 称	令和7年度東海・北陸・近畿ブロック肢体不自由児療育研究会
タイトル	睡眠障害のある短期入所利用児への入眠援助 ～～個別シート・睡眠日誌を活用した援助の実践～
要 旨	睡眠障害がある短期入所利用児が、うまく睡眠導入できないと大声で泣き叫び、頭やあごを叩くなど自傷行為をする特性があった。また利用毎に担当者が代わるため寝かしつけも個々の力量に任されており、夜間の対応に困難や負担を感じていた。そこで就寝時ルーティンを含めた個別シートを作成して、作成前後の睡眠日誌で睡眠状態がどのように変化したか分析し結果を発表した。統一した対応と関わりをすることで、安心して夜間を過ごせており、スタッフの不安や困り感が少なくなってきたと回答した。

2 講演

・川谷正男(医師)

年月日	2025年 7月31日
場 所	小浜市健康管理センター
名 称	令和7年度小浜市保健師対象学習会
タイトル	乳幼児期の精神発達と発達障がいについて
要 旨	小浜市内の保健師を対象とした勉強会で講師を担当した。当センターでの診療・療育の実際や関わり方の要点を医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、心理士から概説した。医師からは、月齢別の精神発達と観察のポイント、発達障がいの早期兆候とその意義、発達障がいに対して医療ができること、できないこと、福井県こども療育センターで行っていることについての講演を行った。

・川谷正男(医師)

年月日	2025年 8月1日
場 所	福井県特別支援教育センター
名 称	令和7年度 医療的ケア特定行為従事者(教員)研修
タイトル	医療的ケア(呼吸障がい)について
要 旨	福井県高校教育課が主催する学校教員を対象とした医療的ケア(呼吸障がい)についての研修の講師を担当した。内容は、医療的ケアの意義、呼吸障害の原因、病態と対応、吸引の実際、その他に感染予防、緊急時の対応、防止方法、てんかんについての講演を行った。

・川谷正男(医師)

年月日	2025 年 8 月 7 日
場 所	ユーアイ福井
名 称	R7 年度 福井県特別支援教育センター研修講座 No.6 医療、福祉、園・学校との連携 ～多様な分野の視点から他機関連携について考える～
タイトル	医療側からみた連携のあり方
要 旨	福井県特別支援教育センターが主催する研修講座で講師を担当した。主に福井県内の小中学校教諭を対象に、医療と教育・福祉とのより良い連携を行うことを目的に、表記のタイトルでの講演を行った。医療の現状や課題について説明し、医療で可能なこと、医療では難しいこと、医療側から教育側への期待すること、キレる子どもの現状と対応、移行支援のあり方などについて話した。

・川谷正男(医師)

年月日	2025 年 10 月 8 日
場 所	オンライン
名 称	北陸 NMD セミナー
タイトル	Duchenne 型筋ジストロフィーの新しい治療と課題
要 旨	製薬会社が主催する北陸地方の小児科医等を対象としたセミナーの講師を担当した。内容は、Duchenne 型筋ジストロフィー特徴や診療のポイント、新しい治療の留意点についての講演を行った。

・川谷正男(医師)

年月日	2025 年 10 月 11 日
場 所	オンライン
名 称	令和 7 年度 福井県栄養士会生涯教育研修会
タイトル	発達障がいおよび神経障がいを持つ対象への関わり
要 旨	福井県栄養士会が主催する研修会で主に学校や医療機関等の栄養士を対象に講師を担当した。内容は、子どもの育ちについて、発達障がいの特徴について、発達障がいと栄養の問題について、発達障がいの子どもに対する対応についての講演を行った。

・川谷正男(医師)

年月日	2025 年 10 月 24 日
場 所	坂井市多目的研修施設
名 称	令和 7 年度 坂井地区母子保健関係職員勉強会
タイトル	子どもの発達に関わるためのエッセンス
要 旨	坂井市の主催で母子保健に携わる保健師、保育士などを対象とした勉強会の講師を担当した。内容は、子どもの発達に影響を与える様々な要因について、発達障がいの特徴や特性に基づいた適切な対応についての講演を行った。

・川谷正男(医師)

年月日	2025 年 12 月 10 日
場 所	オンライン
名 称	神経筋疾患セミナー in 北陸
タイトル	治療可能な神経筋疾患
要 旨	製薬会社が主催する北陸地方の小児科医等を対象としたセミナーの講師を担当した。内容は、神経筋疾患の診療のポイント、Duchenne 型筋ジストロフィーや脊髄性筋萎縮症特徴や診療のポイント、新しい治療の留意点についての講演を行った。

・川谷正男(医師)

年月日	2025 年 12 月 24 日
場 所	福井県特別支援教育センター
名 称	令和 7 年度医療的ケア看護師・教員等研修会
タイトル	学校等における医療的ケアの意義について
要 旨	福井県高校教育課が主催する学校看護師や教員を対象とした医療的ケアの意義についての研修会の講師を担当した。内容は、福井県内や学校での医療的ケア児の現状や課題について、医療的ケアの意義、医療的ケア指示書の活用、移行の課題、福井県こども療育センターの現状と課題についての講演を行った。

・川谷正男(医師)

年月日	2026 年 1 月 14 日
場 所	福井県立看護専門学校
名 称	令和 7 年度 福井県こども療育センター実習ガイダンス
タイトル	子どもの発達と障がい、医療的ケアについて
要 旨	福井県立看護専門学校の学生を対象に当センターでの実習に向けてのガイダンスで師を担当した。内容は、福井県こども療育センターの紹介、子どもの発達について、発達障がいについて、重症心身障害と医療的ケアについて、療育の意義についての講演を行った。

・村田 淳(医師)

年月日	2025年 10 月9 日
場 所	ウェビナー（オンラインセミナー）
名 称	とやま小児運動器研究会
タイトル	こども整形外科玉手箱 失敗しないコツ教えます
要 旨	富山市内の小児科医を対象に、 ・小児の O 脚 ・乳児股関節脱臼検診（福井県式 NTSS 法） ・脊柱側弯症のあれこれ ・小児の斜頸 等について症例を提示しつつ講演した。 (こだわりがなければ専門医への早めの丸投げ紹介をお勧めします。と啓蒙した)

・村田 淳(医師)

年月日	2025年 11 月7 日
場 所	福井市医師会館
名 称	福井市医師会 学校保健研修会
タイトル	これでよいのか運動器検診？ 非関係者専門医の痴見
要 旨	福井市内の学校医等を対象に、 ・学校運動器検診の実態とそれに対する私見(学校運動器検診は無駄が多い。そもそもの設定から間違っている) ・脊柱側弯症検診の現状と問題点、改善法について 学会の考え や 他県での取り組み および それに対する私見を加えて講演した。 (現状では全く検診として機能していないため全国で改善が模索されている。学会は何らかの画像検査が必要と考えているが、脱衣の問題、費用や人手での問題等もあり遅々として進んでいない。私見では香川県の事例が参考になると考えている。またこれらとは別に X 線検診が有効だと考えている。)

・熊野 麻美(医師)

年月日	2025 年 7 月 23 日
場 所	アイアイ鯖江
名 称	R7年度発達・療育に関する研修会
タイトル	医療ができること、できないこと
要 旨	発達診療を行っている医療機関がどのようなことを行っているのか、医療が必要な時はどんなときなのか、医療では難しいこととは何なのかといったことを伝え、様々な支援者どうしが連携していくことの必要性について講演した。

・熊野 麻美(医師)

年月日	2026 年 2 月 20 日
場 所	福井市きらら館
名 称	R7年度発達障害児支援研修
タイトル	小児科医からみる不登校
要 旨	不登校診療を行うときに何を考えどのようにアプローチしているのか、発達障害と不登校の関係について、不登校支援・不登校予防をしていくうえで教育、福祉とともに取り組んでいけるとよいことを講演した。

・堀田 和孝(理学療法士)

年月日	2025年 10月3日
場 所	福井県立病院
名 称	福井県理学療法士会 福井北グループ研修会
タイトル	呼吸理学療法実技～換気補助と排痰手技の基本～
要 旨	セラピストを対象にした、呼吸理学療法に関する講義の講師を担当した。内容は基本的な呼吸循環生理の再確認から、状態に応じた換気補助・排痰手技の講義及び実技指導を行った。参加者からは臨床での呼吸器疾患の患者の理学療法に関する困りごとや、小児疾患に対しての呼吸理学療法の方法の質問があった。

・栗原恵（作業療法士）、岩本真己子（言語聴覚士）、塚谷桐子（理学療法士）、西村真衣（言語聴覚士）、中屋美紀（公認心理師・臨床心理士）、辻田裕恵（地域支援課長）

年月日	2025年 7月2日
場 所	高棕コミュニティセンター
名 称	坂井地区障害児・者総合支援協議会児童部会主催、子ども発達支援センターこぶし園 共催「令和7年度 支援者交流・研修会 ～つなげる・広げる地域連携の輪～」
タイトル	「リハビリテーションの視点から考える幼児期の支援」
要 旨	坂井地区障害児・者総合支援協議会児童部会と、子ども発達支援センターこぶし園の共催による、支援者交流・研修会に講師として参加した。 研修会では話題提供として、坂井市・あわら市からは発達相談支援の流れや利用状況の紹介、当センターからはセンターで実施している各リハビリ職種の評価方法やその視点、リハビリの内容について紹介を行った。各市の乳幼児健診や発達相談支援体制について我々も知ることができ、センターのこともより知って頂ける貴重な機会となった。 その後のグループワークでは、地域支援グループ職員も各グループに入り参加した。医療・福祉・教育・保育・行政など、様々な立場から活発な意見交換が行われ、顔の見える関係性づくりの大切さを改めて実感し、地域連携をより深める機会となった。

・塚谷桐子（理学療法士）、中屋美紀（公認心理師・臨床心理士）

年月日	2025年 6月24日
場 所	小浜市働く婦人の家
名 称	若狭地区障害児・者自立支援協議会 障害児通所支援事業所連絡会
タイトル	こどもの行動理解とよい姿勢のコツ
要 旨	宿題に関して困り感を抱える児童への支援について講義を行った。心理士からは、応用行動分析（ABA）の視点を用いて、困った行動の背景にある行動の機能を理解し、望ましい行動を引き出すための関わり方を伝えた。理学療法士からは、学習時の姿勢が集中力に与える影響について説明し、良い姿勢が取りやすくなる机・椅子のポイントや体の使い方など、日常生活で活かせる実践的な方法が示された。参加者からは自分の事業所でも取り入れた、自分の考え方を改めて見直す機会となったとの声があり、現場での支援に役立つ学びとなった。

・塚谷桐子(理学療法士)、栗原恵(作業療法士)、岩本真己子(言語聴覚士)、西村真衣(言語聴覚士)、中屋美紀(公認心理師・臨床心理士)

年月日	2025年 11月 17日
場 所	こども療育センター
名 称	令和7年度 福井市小中学校障がい児介助員研修会
タイトル	こども療育センターリハビリの紹介・介助が必要な児童生徒への対応について
要 旨	福井市小中学校介助員 25 名が参加した。講義では、当センターにおける各療法(理学療法、作業療法、言語聴覚療法)のリハビリテーション開始の流れ、保護者へ伝えている内容について説明した。さらに、理学療法士の視点から、歩行や階段昇降時の支援方法、安全で負担の少ない介助方法など、児童と介助者双方が安心できる介助のポイントについて講義を行った。 その後のグループワークでは、日頃の学校現場での介助に関する悩みや課題を共有し、意見交換を行った。他の介助員の取り組みや工夫を知ることができ、互いに学び合う有意義な機会となった。 当センターの見学(外来診察室・リハビリ室、つくし園)を行った。実際に見学することで当センターについて理解が深まる良い機会となった。

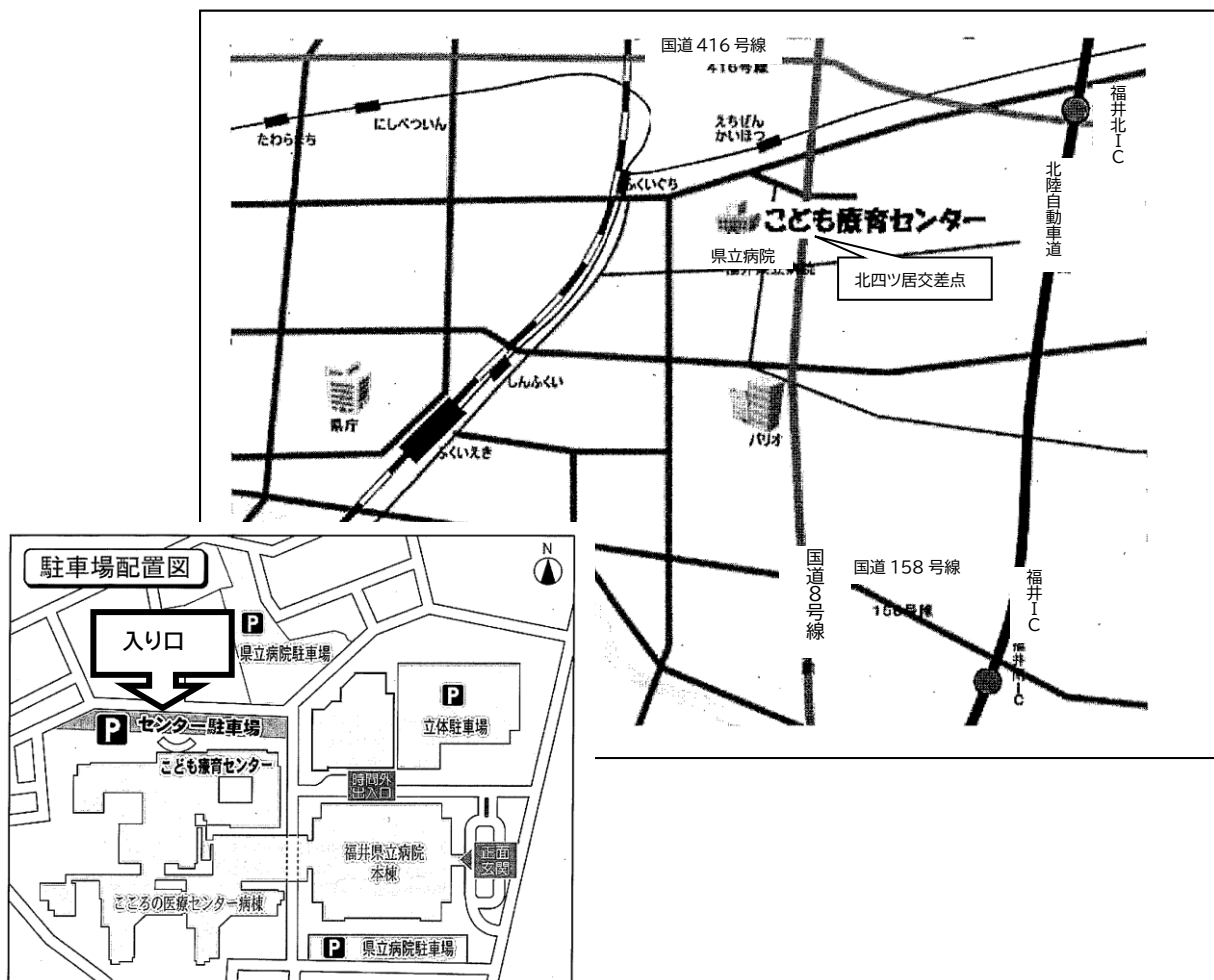
・岩本真己子(言語聴覚士)、塚谷桐子(理学療法士)

年月日	【第 1 回】2025 年 10 月24日 【第 2 回】11月 28 日
場 所	【第 1 回】坂井市多目的研修施設 【第 2 回】春江中コミュニティセンター
名 称	坂井地区母子保健関係職員勉強会
タイトル	【第 1 回】 福井県こども療育センター リハビリテーション 【第 2 回】 就学前に身につけておきたいこと
要 旨	保健師、保育士、看護師、教員等を対象に講演をおこなった。 【第 1 回】「発達障がい・健診からの流れ」のテーマのもと、あわら市・坂井市の健診の現状、小児科医師の講演もあった。こども療育センターのリハビリテーションについて、開始までの流れを紹介し、理学療法・作業療法・言語聴覚療法についての紹介とそれぞれがおこなっている保護者指導内容について講演した。 【第 2 回】「就学」のテーマのもと、こぶし園・特別支援教育センターの講演もあった。就学後の生活で必要な動作および就学に向けて園で取り組める内容について講演した。

3 執筆

・近藤 千春(作業療法士)

年月日	2025 年 月 日(発刊待ち)
場 所	
名 称	福井県作業療法士学術誌
タイトル	自閉スペクトラム症を呈する児の箸操作の介入—当センターの特別外来の取り組みを通して—
要 旨	【背景】自閉スペクトラム症(Autism Spectrum Disorder 以下, ASD)では, 発達性協調運動障害(Developmental Coordination Disorder 以下, DCD)の共存率が高いとされている。この不器用さは、生活上の困難さを引き起こすとされているが、その一つに食具操作がある。中でも箸操作は、保育園や幼稚園、学校と行った集団生活の食事場面において要求される技能であり、「正しく」持つことを求められることが多い。 【対象と方法】自閉スペクトラム症、精神発達遅滞を呈する年長男児。粗大運動・巧緻動作のプログラムを実施。 【結果と考察】 普通箸の操作性が向上した。今回、症例が普通箸での食事動作を獲得できた理由として、①身体イメージ・巧緻動作の向上②保護者と協同することで、ほぼ毎日、自主トレができた③特性に応じた支援や症例のモチベーションを保つ工夫が有効だったことだと考える。



◎ えちぜん鉄道・・・「福井口」下車 徒歩 約 10 分

◎ 京福バス・・・福井駅バスロータリー(西口) ①のりば

「36 県立病院丸岡線」 「39 大和田丸岡線」 ⇒ 「県立病院」下車
福井駅からバスで約 13 分、その後、徒歩 約 5 分

福井駅バスロータリー(西口) ⑥のりば

「1 すまいるバス すまいる東ルート 城東・日之出方面」

⇒ 「県立病院口」下車

福井駅からバスで約 30 分、その後、徒歩 約 8 分

療育のあゆみ 2025 年（令和 7 年）度業務統計

2026 年 7 月 発行

編集・発行 福井県子ども療育センター

〒910-0846 福井市四ツ井 2 丁目 8-1

電話 0776-53-6570

FAX 0776-53-6576